

■中江兆民 思想家。“東洋のルソー”。一貫して人民主権を説き、部落解放論、癌宣告などにも著しい先進性を示した。
なかえちようみん
・ ・ ・ ・ ・ 1847＝ 土佐藩出身。父は足輕身分下横目役(下級警察吏)。

幼少年時を過ごした家は、父の落度により土佐藩獄舎のある牢の町の長屋であった。志士の投獄や処刑を目撃するよりほかに維新の胎動を感じるすべのなかった彼をこの閉ざされた空間から解き放ったのは、維新の激動と自身の学問への熱意であった。

ペリー来航・1853＝ 6歳：

松下村塾・ ・ 1856＝ 9歳：

遣欧使節・ ・ 1861＝14歳：父が死去し、足輕として相続を許される。
生麦事件・ ・ 1862＝15歳： 広く民兵にも門戸を開放した藩校致道館の設置によって勉学の機会を得、

薩摩藩士密航1865＝18歳： 土佐藩留学生として長崎に派遣され、そこでフランス語を学ぶとともに坂本竜馬に出会う。

大政奉還・ ・ 1867＝20歳： 後藤象二郎の援助で江戸遊学の志を実現、村上英俊の達理堂に入塾、箕作麟祥の下でフランス語を学ぶ。
明治維新・ ・ 1868＝21歳： 苗字を許され中江を名のる。
戊辰戦争終・ 1869＝22歳： 大学南校の大得業生となり、
初の日刊新聞1870＝23歳： 大久保利通の斡旋で司法省出仕としてフランス留学を認められ、
廃藩置県・ ・ 1871＝24歳： 岩倉使節団とともに渡欧した。

明治6年政変 1873＝26歳：
佐賀の乱・ ・ 1874＝27歳：2年にわたる滞仏生活の後、 帰国。
初の民間工場1875＝28歳： 東京外国語学校校長、元老院権少書記官を務める一方、仏学塾を開いてフランス学の普及を目ざし、

西南戦争・ ・ 1877＝30歳： 元老院を辞し、以後ふたたび官職につかず、仏学塾での研究教育とともに、高谷竜洲、岡松甕谷、三島中洲らの漢学者の門をたたいて漢学仏典の研究に専心する。

・ ・ ・ ・ ・ 1880＝33歳： *国会期成同盟を結成。署名を集めて開設願いを提出。
明治14年政変1881＝34歳： 西園寺公望らと始めた{東洋自由新聞}は、その後死ぬまで継続される藩閥政府批判と自由民権の確立のための言論活動の最初の舞台となる。のち、{自由新聞}{欧米政理叢談}でも言論活動、
新体詩抄・ ・ 1882＝35歳： *{政理叢談}を発行して、彼が“東洋のルソー”と称される機縁となった「民約訳解」など自由主義思想の啓蒙に努める。

岩倉具視没・ 1883＝36歳：
異論との対決が真理へ近づくという確信から、藩閥政府には言論の自由をはじめとする市民的自由の保障を求め、在野の政治運動に対しては地縁的閥族的結合を超えた旨義の自由な交流による結合を説き、
国民之友始・ 1887＝40歳： その思想的結実「三酔人経綸問答」を刊行。保安条例による東京退去後は{東雲新聞}{立憲自由新聞}{自由平等経綸}等の新聞雑誌での言論を主に政治活動。
初の対等条約1888＝41歳： 独自の唯物論哲学に立つ徹底した平等論から、いち早く“新民世界”と題する本格的な部落解放論を発表。
帝国憲法発布1889＝42歳：
帝国議会始・ 1890＝43歳： *第1回総選挙で衆議院議員に当選し、民党合同と憲法点関のために議院内外の活動に尽力するが、第一議会での予算案削減をめぐるいわゆる自由党土佐派の裏切りに憤激し議員を辞し、
大本教・ ・ 1892＝45歳： 母死去。
その後実業活動に入るが失敗。晩年にはしだいに政府との間で“情意投合”を求める政党にも絶望し、

日清戦争始・ 1894＝47歳：
子規句歌革新1898＝51歳： ほとんど一人で国民党を創立し、機関誌まで出したが、挫折。
国権主義的性格の強い国民同盟会に接近する。

ビ7/国産化・ 1900＝53歳： *喉頭癌で余命1年を宣告されてからは一切の社会活動から身を引き、自由な言論人、孤独な理学者という“真我”に立ち帰って「一年有半」「続一年有半」の2著を残し、
田中正造直訴1901＝54歳： 没した。